

五島市沖洋上風力発電事業



GOTO-FWF LLC.

GOTO-Floating Wind Farm LLC.



五島における浮体式洋上風力発電の取り組み

- 2010年 環境省による浮体式洋上風力発電実証事業スタート
- 2013年 五島市稚島沖に実証機「はえんかぜ」を設置
- 2016年 「はえんかぜ」を崎山沖に移設、商用運転を開始（現在も稼働中）

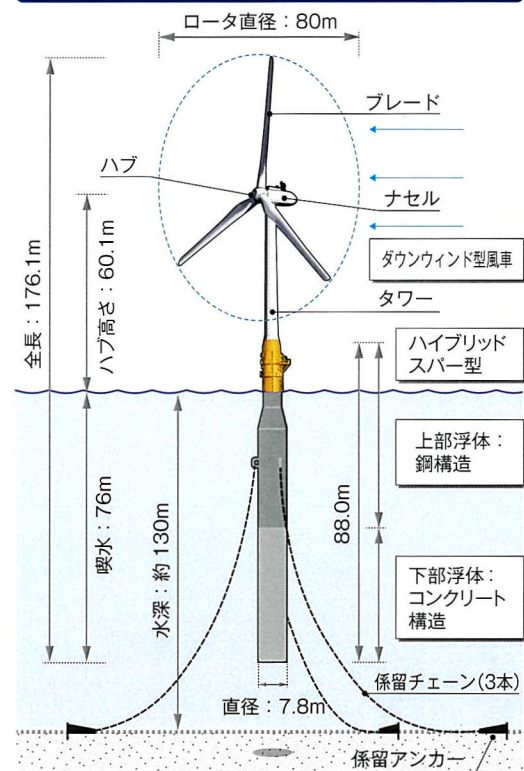
五島市沖洋上風力発電事業

- 2018年 環境アセスメントを完了し、評価書確定通知を受領
- 2020年 五島市沖が再エネ海域利用法に基づく促進区域として指定され、公募開始
- 2021年 事業者を選定され、五島フローティングウィンドファーム合同会社設立
- 2022年 海域占用許可を取得し、海上工事を開始

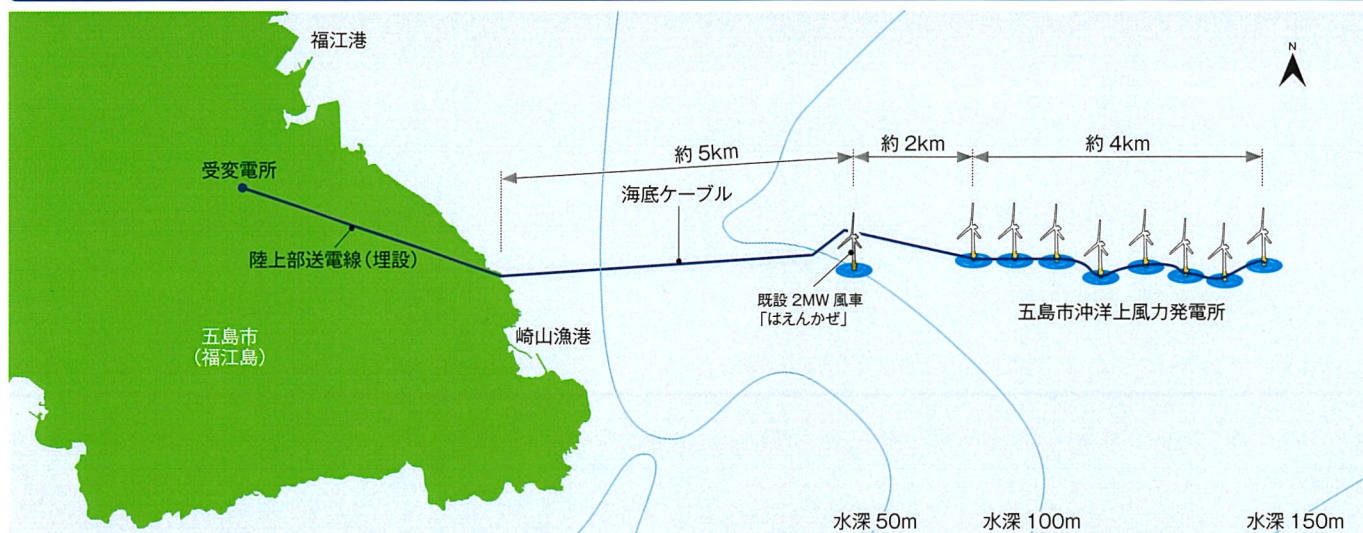
事業の場所



風車の概要



設置海域における風車の配置



用語の説明

- 「洋上風力発電」** 風車を洋上に建設して、そこで発電を行うものです。洋上は陸上に比べて、風況が良く、風の乱れが小さいことがメリットとされています。洋上風力発電は、風車を支える構造物の特徴によって「着床式」と「浮体式」に分類されます。
- 「浮体式洋上風力発電」** 洋上に浮かぶ構造物に風車を設置して発電するものです。浮体構造物は、半潜水型の「セミサブ型」、箱筒型の「バジ型」、円筒状の「スパー型」、緊張係留で固定する半潜水型の「TLP型（Tension-Leg Platform）」に分類され、係留索とアンカーにより固定されます。
- 「ハイブリッドスパー型」** 細長い円筒形であるスパー型浮体構造物の下部をコンクリート、上部を鋼で構成するものです。下部にコンクリートを使うことで重心を下げ安定性を向上させています。ハイブリッドスパー型の浮体構造物は、2010年に環境省の実証事業として採択され、小規模試験機の建設、実証を行った後に、2013年に2MW実証機「はえんかぜ」として建設、設置を行いました。

事業の概要

事業名称	五島市沖洋上風力発電事業
事業主体	五島フローティングウィンドファーム合同会社 GOTO-Floating Wind Farm LLC.
目的	風力発電および売電に関する事業
発電規模	16.8MW(= 2.1MW/基×8基)
所在地	長崎県五島市
運転開始	2026年1月(予定)
参画企業	戸田建設株式会社(代表企業) ENEOSリニューアブル・エナジー株式会社 大阪ガス株式会社、株式会社INPEX 関西電力株式会社、中部電力株式会社
お問い合わせ	戸田建設株式会社
URL	URL: https://www.toda.co.jp/



※完成予定図はイメージです。実際の風景とは異なります。